佐藤敬 ≪LE DANS≫（部分）1950年

髙山辰雄 ≪豊後里道に月を見る≫（部分）2005年

吉村益信 ≪豚；Pig Lib；≫（部分）1994年

大分発アヴァンギャルド

芸術都市の水脈

～田能村竹田からネオ・ダダまで～

田能村竹田≪白鶴図≫（部分）1822年

宇治山哲平≪阿吽≫（部分）1972年

福田平八郎 ≪紅葉と虹≫（部分）1947年

平成27年

4月16日(木)－7月5日(日)

休館日 4月20日、27日、5月11日、18日、25日
6月8日、15日、22日、29日（全て月曜日）

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

観覧料 一般800円（600円）／高校生・大学生 600円（400円）
中学生以下は無料

※（　）内は20人以上の団体料金です。※会期中は、特別展のみとなります。※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳提示者とその介護者は無料。※本展は「大分市美術館年間パスポート」がご利用になれます。

主催：大分市美術館
後援：大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送、エフエム大分、OCT大分ケーブルテレコム

大分市美術館
OITA ART MUSEUM

大分発アヴァンギャルド

芸術都市の水脈

～田能村竹田からネオ・ダダまで～

大分は古(いにしえ)から仏教文化を受容し、また中世の大友宗麟時代いち早く南蛮文化を摂取するなど、進取の気風に富んだ土地柄です。美術においても、江戸後期から明治の初めの豊後南画の隆盛や日本画の福田平八郎、髙山辰雄、洋画の佐藤敬、宇治山哲平、工芸の生野祥雲斎など、先進的な芸術家を育んだ芸術風土が脈々と受け継がれています。

本展では江戸後期の田能村竹田から明治、大正、昭和を経て、戦後の前衛美術を代表するネオ・ダダに至る、各時代における優れた美術家の輩出とその革新性に注目し、大分の風土が育んだ特質をアヴァンギャルドの系譜としてとらえ、芸術都市大分に流れる破壊と創造の水脈を、当館のコレクション約350点により紹介します。

当企画は大分市美術館のすべての展示室を使用して開催するもので、常設展示室と企画展示室を合わせて６つの章からなる会場構成となっています。

【会場構成】

第1章（常設展示室1）　大分の自然と風土
第2章（常設展示室2）　豊後南画の確立者　田能村竹田と富春館
第3章（常設展示室3）　アヴァンギャルドの温床と拠点　大分中学とキムラヤ
第4章（常設展示室4）　生野祥雲斎と竹工芸の革新
第5章（企画展示室2）　ネオ･ダダと前衛の位相
第6章（企画展示室1）　コレクションに見るモダンとポストモダン

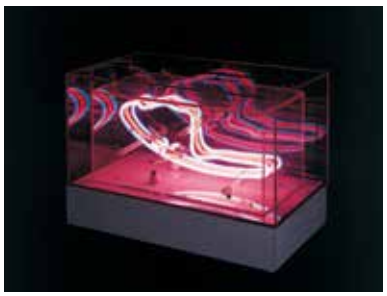
田能村竹田≪白鶴図≫1822年　重要文化財
展示期間４月16日㈭～５月24日㈰

生野祥雲斎≪怒涛≫1960年

篠原有司男≪モーターサイクル・ヴァン・ゴッホ≫1991年

佐藤敬≪暁≫1940年

髙山辰雄≪湯泉≫1934年



吉村益信≪Heads in Transparence≫1967年

関連イベント

講 演 会（無料）

第１回　日　時　５月10日㈰　午後２時～午後３時
講　師　満生　和昭氏（大分市美術館　初代館長）
テーマ　大分市美術館コレクションの魅力
場　所　ハイビジョンホール
定　員　80名（先着順）

第２回　日　時　５月24日㈰　午後２時～午後３時
講　師　菅　章（大分市美術館　館長）
テーマ　芸術都市大分の楽しみ方
場　所　ハイビジョンホール
定　員　80名（先着順）

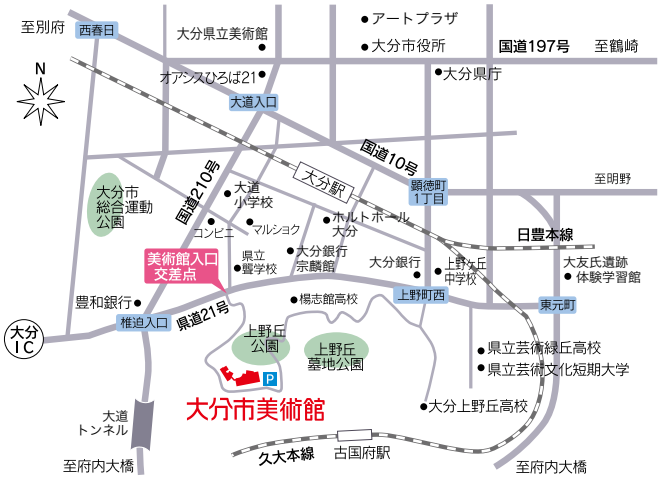
鼎　談（無料）

日　時　６月14日㈰　午後２時～午後４時
講　師　清原　保雄氏（大分合同新聞社　論説・編集委員室長）
　　渡辺　恭英氏（大分県芸術文化振興会議　理事長）
　　菅　章（大分市美術館　館長）
テーマ　大分市美術館が果たしてきた役割と今後の展開
場　所　研修室
定　員　100名（先着順）

展示解説（観覧料が必要です）

日　時　６月７日㈰、21日㈰、28日㈰ 午後２時～（30分程度）
場　所　展示室
解　説　当館職員

次回特別展　水戸岡鋭治デザインワンダーランド
駅弁からななつ星まで　7月11日㈯～9月27日㈰



【交通案内】
バス＝JR大分駅上野の森口（南口）バスのりばから
【大分市美術館】行き約6分下車すぐ
タクシー＝JR大分駅上野の森口（南口）から約5分
車＝大分自動車道／大分ICから約10分

大分市美術館
OITA ART MUSEUM

〒870-0835 大分市大字上野865番地 TEL097（554）5800　FAX 097（554）5811
［ホームページ］http://www.city.oita.oita.jp/ →総合案内［楽しむ］→大分市美術館へ